

■熊本県の人口(平成18年4月1日推計) 1,834,281人 男 862,304人 女 971,977人
■発行/熊本県広報課

熊本県広報誌

県からのたより



魚介類の育成の場などになる海草アマモにより海の再生を目指す

熊本県立芦北高等学校林業科(葦北郡芦北町)「地域と連携した海域環境改善の取り組み」

県では、環境への配慮を当たり前のこととして行う、循環と共生を基調とする「環境立県くまもと」づくりを進めています。環境を守るためにできることから、さまざまな活動が広がっています。



六月は環境月間です

あなたとつくる環境立県くまもと

特集

写真は「第15回 くまもと環境賞」受賞者の皆さんです



茂串海岸のごみを熱心に拾う園児たち

社会福祉法人共愛会 茂串保育園(天草市)
「県内初ISO14001活用の就学前環境活動」



竹細工を通じて森の役割を伝える

林田 弘治氏(玉名郡南関町)
「自然環境を守る大切さを伝える取り組み」



力を合わせて「みんなの森」づくり

熊本市立山ノ内小学校(熊本市)
「開校以来継続的に行ってきた植樹活動」



園児に腐葉土作りを教える会員たち

Ecoシティー研究会・どんぐりの木(宇城市)
「循環型社会を目指した環境教育の実践」

知事室から



熊本県知事 潮谷義子

熊本には清らかな水、緑美しい山々など、豊かな自然が息づき、私たちの生命をはぐくみ、心を和ませてくれています。このかけがえのない自然環境を健全な形で次の世代へ引き継いでいくことは、今、恩恵を受けている私たちの使命です。

県では、環境への配慮を当たり前のこととして行う「環境立県くまもと」づくりの取り組みを進めています。県民の皆様には、ごみの分別や川や海の清掃活動など、身の回りのできるところから実践いただきたいと願っています。

さて、本年五月一日、水俣病の公式確認から五十年という節目の日を迎えました。私も水俣病犠牲者慰霊式に参列いたしました。新しい慰霊碑に向い、一昨年の関西訴訟最高裁判決で問われた行政としての責任の重さをあらためて痛感いたしました。水俣病は日本が高度経済成長を推し進める政策の中で発生・拡大した公害です。この問題は一地域の問題でなく、国全体、国民すべてが向き合うべき課題であることを一層強く感じました。

六月は「環境月間」です。このような思いを胸に、県民の皆様と共に、「環境立県くまもと」の実現に取り組んで参ります。

主な記事

- 1 2 3 特集/あなたとつくる環境立県くまもと
- 4 変えなければならない男の意識 男女共同参画社会の実現に向けて
- 5 安全安心なまちづくり・知りたい!県庁
- 6 7 お知らせ・は〜い!県議会
- 8 新幹線くまもと創り・来て見てだより